

お手数ですが、こちらに、お手元の調査票の→  
整理番号を半角でご記入ください。(例:A1)

整理番号					
		6			

高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究  
「高等学校における障害のある生徒の進路指導をめぐる現状と課題に関する質問紙調査(後続調査)」

## 1. 貴校とご回答者の属性についてお尋ねします。

(1) 貴校についてお答えください。※ 1)、3)はあてはまるものを **1つ選び**数字に✓。2)は**複数選択**可。

1) 課程	1	全日制	2	定時制	3	通信制
2) 学科(複数選択可)	1	普通科	2	専門学科	3	総合学科
3) 通級指導教室の設置	1	あり	2	なし	3	設置予定

(2) 貴校において、卒後の進路として就職を目指す生徒のおおよその割合を教えてください。(数字をお書きください) ※数字は半角で入力をお願いします。

おおよそ  割程度

(3) ご回答者について伺います。

担当している校務分掌等(令和4年 11 月1日現在)をお答えください。(あてはまるものを**全て選び**数字に✓)  
また、経験年数(現所属校以外の経験を含む)を**数字**でお答えください。※数字は半角で入力をお願いします。

1	進路指導担当(進路指導主事等)	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	ヶ月
2	特別支援教育コーディネーター	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	ヶ月
3	通級による指導の担当	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	ヶ月
4	学級担任	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	ヶ月

## 2. 貴校における、障害のある生徒への進路指導等の状況についてお尋ねします。

本設問は、約3年間(令和元年度～現在)に、貴校に在籍していた、障害が「ある」、「あると思われる」生徒について伺います。 ※ 教員の判断による「障害がある可能性」がある生徒を含む。障害の定義は、別紙参照。

貴校における障害のある生徒に対する「進路指導」や「自立と社会参加」に向けた指導・支援の状況について伺います。回答に当たっては、障害種を任意で1つ選択し、その障害種にあてはまる生徒の事例についてお答えください。

(1) 設問(2)～(6)でご回答いただく、障害種を**1つ選択**してください。(あてはまる数字に✓)

1	視覚障害	2	聴覚障害	3	肢体不自由	4	病弱・虚弱	5	知的障害
6	LD	7	ADHD	8	ASD	9	精神障害		

(2) (1)で選択した障害を有する全ての生徒について、卒業した後の状況をどのように把握しているかお答えください。(あてはまるものを**全て選び**数字に✓)

1	進路先に問い合わせている	2	進路先から問い合わせがくる	3	把握していない
4	その他(具体的に):				

(3)(1)で選択した障害を有する全ての生徒について、特性に応じて取り組んでいる進路指導等に関する指導・支援について伺います。①貴校で取り組んでいる指導・支援の内容をお答えください。その上で、②指導・支援を実施している教育課程をお答えください。

① 取り組んでいる指導・支援 (あてはまるものを <u>全て</u> 選び、数字に✓)		② 教育課程 (①で選択した内容について、実施している教科等について✓を記入)					
		各教科 (共通する教科)	各教科 (専門学科で開設の教科)	総合的な探求 の時間	特別 活動	学校設 定科目	通級に よる指導
1	作業遂行に関する力を高める						
2	対人コミュニケーション力を高める						
3	基本的な生活力をつける						
4	自己理解(障害特性を含む)を促す						
5	メンタルの安定(ストレス解消を含む)を図る						
6	自己肯定感を高める						
7	インターンシップの調整・実施						
8	働くことを意識づける						

(4)(1)で選択した障害を有する全ての生徒への対応について、①貴校のみでは取組が困難なため、保護者や関係機関との連携が必要と考える内容と、②連携への期待についてお答えください。

① 自校のみでは困難なので連携が必要と考える内容 あてはまるものを <u>全て</u> 選び、連携を期待する「保護者」「関係機関」の欄に✓を記入	保護者	関係機関	② 期待 (具体的にお書きください) 例:具体的な体験の機会を設定して欲しい。
			作業遂行に関する力を高める指導・支援
対人コミュニケーション力を高める指導・支援			
基本的な生活力をつける指導・支援			
自己理解(障害特性を含む)を促す指導・支援			
メンタルの安定(ストレスの解消を含む)を図る指導・支援			
自己肯定感を高める指導・支援			
インターンシップの調整・実施			
働くことを意識づける指導・支援			
その他(具体的に) 保護者への期待: 関係機関への期待:			

3. 2―(1)で選択した障害を有する生徒について、特性に応じた指導・支援や、連携による支援を行ったことで、「好事例」につながった事例の中から、任意の1事例を選んでお答えください。

(1) 事例の「障害への気付き、診断、手帳の取得状況」をお答えください（あてはまるものを1つ選び数字に✓）

1	診断・判定あり／障害者手帳あり	2	診断・判定あり／障害者手帳なし
	障害者手帳の種類(分かれれば教えてください) [①身体障害者手帳 ②療育手帳 ③精神障害者保健福祉手帳]		
3	診断・判定なし／本人の障害特性への気づきあり	4	診断・判定なし／本人の障害特性への気づきなし
5	分からない		

(2) 事例の生徒に対し、どのような状況(課題・ニーズ等)にあり、それに対し、どのように指導・支援を進めたかについて、以下の①から⑤の視点で具体的にお答えください。

(例:生徒は、〇〇という状況にあったため、～を目的に、××の指導・支援を行った。具体的には…。)

①自己理解(障害特性の理解を含む)を促しながら、進路先決定に向けて行った指導・支援内容について具体的にお答えください。

② ①の内容の他、進路先決定に向けて取り組んだ指導・支援内容があれば具体的にお答えください。  
\*授業の中で行った場合は、その内容について触れつつお答えください。

③自立と社会参加のための力の習得に向け、取り組んだ指導・支援内容があれば具体的にお答えください。  
\*授業の中で行った場合は、その内容について触れつつお答えください。

④保護者と連携を行った場合は、どのようなきっかけで、どのような連携をしたかお答えください。

⑤関係機関(進路先となる大学や企業、連携先となる特別支援学校や福祉・労働機関等)と連携した場合は、機関の種類と併せて、どのようなきっかけで、どのような連携をしたかお答えください。  
\*進路先等への個別の教育支援計画等の引継ぎや、卒業後の支援も含みます。

(3) 事例の生徒の進路先をお答えください。

1	進学(大学・短期大学、高等専門学校)	2	進学(専修学校等)	3	就職(一般雇用)	4	就職(障害者雇用)
5	職業訓練(職業能力開発校等)	6	就労準備に向けた訓練(就労移行支援事業所等)	7	その他(具体的に):		

\*就労継続支援 A 型事業所(雇用契約「あり」の場合)は、4 に含めてください。

(4) 回答事例が、「好事例」となった要因として、何が最も重要であったと考えますか？ 具体的にお答えください。

例:早期からの継続的な指導・支援や引継ぎがあった。保護者の理解があり、本人の自己理解も進んでいた。

## 4. その他

(1) 就職、進学に向けた指導・支援について、知りたい情報があればお書きください。

①就職に向けた指導・支援	②進学に向けた指導・支援
例:一般雇用と障害者雇用の違いについて知りたい。就労支援機関の種類や役割が分からないので知りたい。	例:大学における障害学生支援について分からないので情報がほしい。

(2)以前回答したはがき調査の結果と本調査の結果を照合して分析いたしますので、学校名の記入をお願いいたします。

学校名	
-----	--

調査は以上になります。お忙しいところご協力いただき大変ありがとうございました。